

平成18年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成18年 9月15日

発表：福島県病害虫防除所

病害虫名：ナシシンクイタマバエ（仮称） *Resseliella* sp.

作物名：ニホンナシ

1 発生経緯

- (1) 平成15年8月、相双地方のナシほ場で、しり腐れ果の中に本種幼虫を初めて確認した。平成16年7月には、県中地方のナシほ場でも同一症状の果実内に本種幼虫が認められたが、この時点では一次加害種であるか否かについては不明であった。
- (2) 平成18年6月、農業総合センター果樹研究所等の調査で、未熟な果実及び樹皮下に幼虫が認められた。被害果実と樹皮下から幼虫及び成虫を採集し、湯川淳一博士（九州大学名誉教授）に同定を依頼した結果、平成18年8月31日に *Resseliella* 属のタマバエの一種（ハエ目、タマバエ科）であることが判明した。現時点で、既知種か新種かは不明である。

2 形態及び生態

- (1) 産卵部位は、主に果実のていあ部（尻部）であるが、樹皮の裂け目にも卵が確認できる。
- (2) 幼虫（老熟）は鮮赤色で、2～3mm程度の大きさであり（写真1）、果実ばかりでなく、樹皮下や新梢にも寄生する。
- (3) 幼虫は、繭を作ってその中で蛹化する。蛹は、果実のていあ部、樹皮下や樹冠下の土壌中に認められる。
- (4) 成虫は、翅長2mm程度の大きさである（写真2）。
- (5) 本種の詳細な発生生態は不明であり、現在、調査中である。

3 発生状況

- (1) 本種に寄生された果実は症状が進むにつれ、心腐れ症状を呈し（写真3）、最終的に腐敗する。平成18年は、既発生地相双地方や県中地方では、発生量が増加する傾向にある。また、新たにいわき地方でも発生が確認された。
- (2) 本種の寄生を受けると「幸水」では、7月中旬以降、果実のていあ部から茶色の果汁が流れ出る場合が多いが（写真4）、果汁が流れていなくても寄生している場合もある。
- (3) 本種による被害の発生は、現在のところ、「幸水」や「新高」などの品種に認められるが、「豊水」での被害は極めて少ない。

4 当面の対策

- (1) 茶色の果汁が流れ出たり、しり腐れ等の被害果実は、水漬けするなど適切に処分する。
- (2) 心腐れ症状が発生しているほ場では、症状が現れていない果実にも本種が寄生している恐れがあるので、果実をよく観察し、疑わしい果実は適切に処分する。



写真1 ナシシクイタマバエ (仮称)
の幼虫



写真2 ナシシクイタマバエ (仮称)
の成虫 (♀)



写真3 果心内部の被害状況 「幸水」



写真4 収穫直前の被害果 「幸水」